

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

1. 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	高砂市立米田西小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	4	3	3	22	28
児童数	102	87	99	101	128	113	6	636	

2. 研究の概要

1. 研究主題

「単元学習を核とした、『生きる力』を培う学習活動の創造」
 ～体験活動と表現活動の充実を目指して(その実際)～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年で単元学習を実施・・・1, 2年は、生活科、
 3, 4, 5, 6年は、総合的な学習の時間を中心に
 (学校として、単元学習に関する研究実績があるため)

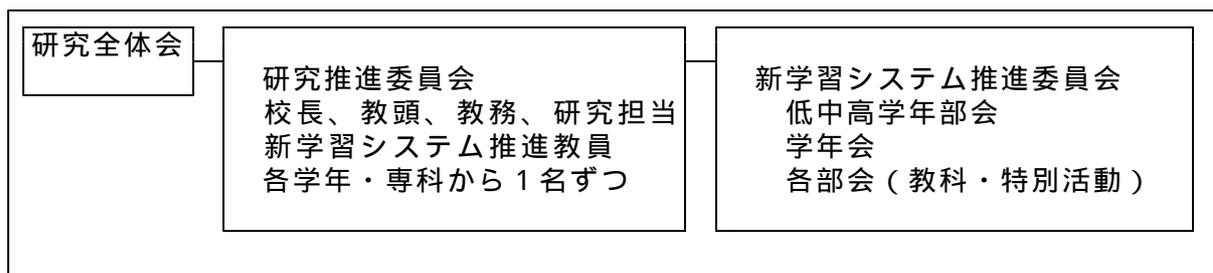
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 『自ら体験し、表現する子』の育成 ～単元学習を核とした、「生きる力」を培う学習活動の創造～</p> <p>推進内容 総合的な学習の時間における学力の明確化 「生きる力」の育成を直接的なねらいとしている総合的な学習の時間において、どのような力を付けることが必要かを実践的に考究していく。 新たな単元の開発による授業実践 総合的な学習の時間において、新しい単元を開発したり、既存の単元に修正を加えたりしながら、児童に新たな学びや学びの深まりを実感させるとともに、各教科で身につけた知識や技能を相互に関連づけて、総合的に働くように「知の総合化」を図る。 個に応じた指導の工夫 総合的な学習の時間などにおいて、情報機器の活用を含め体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れた少人数授業や同室複数指導を実施することにより、児童の多様な興味・関心に対応したきめ細かな指導を行う。 地域人材の活用 経験や専門性をもった地域人材を効果的に活用し、知の総合化をより推進していく。平成14年度は、地域の老人会、電力会社、石材店などに協力依頼をし、人材登用する予定である。 単元ごとの評価規準および評価方法の工夫 実施する単元ごとに評価規準を作成し、評価する観点を明確にするとともに、評価の場面・評価方法などを工夫し、指導に役立てる。</p> <p>推進方法 授業実践により、研究の推進を図る。 ・毎月第3週を研究授業週間とする。 ・総合的な学習の時間や教科の授業を、年に1回は授業公開する。</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 単元学習を核とした、『生きる力』を培う学習活動の創造 ～ 体験活動・表現活動の充実を目指して（その実際）～</p> <p>推進内容 総合的な学習における学力の育成状況の調査 ・総合的な学習において培いたい力を仮説化する。 ・培いたい力の育成状況をアンケートにより調査する。 ・その調査結果をもとに、単元ごとの評価規準・評価方法の見直し、指導方法や指導体制の改善を行う。 単元開発と授業実践 総合的な学習や生活科を中心とした単元学習の望ましい在り方を探る。 地域人材の活用 経験や専門性をもった地域人材を効果的に活用し、知の総合化を推進する。</p> <p>推進方法 ・授業実践により、研究の推進を図る。 ・文献研究、単元集作成、各学年の年間学習計画作成する。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 単元学習を核とした、『生きる力』を培う学習活動の創造 ～ 体験活動・表現活動の充実を目指して（その評価）～</p> <p>推進内容 研究発表会の開催、研究の成果の普及 公開授業研究会を実施し、研究の成果を広める。 単元ごとの評価規準の修正 単元ごとの評価規準を見直し、評価の観点、評価場面、評価方法などをより明確にし、指導の焦点化を図る。 地域人材の活用 経験や専門性をもった地域人材を効果的に活用し、知の総合化を推進する。</p> <p>推進方法 ・研究発表会の開催 ・授業実践により、研究の推進を図る。 ・文献研究、単元集作成、各学年の年間学習計画作成する。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・教科や道徳等の他領域との関連や児童の学びの成長を見守ることに留意し、単元開発や授業実践を進めてきたことにより、広い視野をもった単元構想がなされるようになり、児童の課題解決(思考、計画立案、実行)に対して、ゆとりをもって指導及び助言できるようになった。
- ・総合的な学習の時間に培いたい力として、「自己学習能力(自ら学ぶ力)」「生き方探究力(生き方を考える力)」の二つを導き出すことができた。
- ・各学年ごとに、平成15年度版年間学習計画(計画カリキュラム、実施カリキュラム)を作成することができた。また、単元ごとの評価規準を含めた「単元集」(平成15年度版)をまとめることができた。(評価の観点...関心・意欲・態度、技能・体験・表現、生き方・学び方)
- ・指導体制の工夫ができた。1クラスを2グループ(ハーフサイズ)に分けたり、1学年3クラスを4グループに分けたりするなど、さまざまな学習集団の形態を取り入れることができた。

2. 今後の課題

- ・単元ごとに評価の観点を定め、評価規準により評価を行ってきたが、客観的に児童の学力の高まりを測る評価方法の工夫改善が必要である。
- ・指導と評価の一体化を図ることができるように、教師の評価に関する力量を向上させる。

・学力等把握のための学校としての取組

- ・学習に対する児童の意識調査を、年に2回(1学期と3学期)行う。
- ・実施単元について、各教師の手応えを自己点検することにより、教師側からも、子どもの学力向上について、確認していった。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度の単元集を、市内小学校(10校)に配布する。
平成16年度10月に、研究発表会を開催する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級 13～18学級
19～24学級 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導 その他
一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
生活 音楽 図画工作 家庭 体育
その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無